

参考資料②

「日本十進分類法の Linked Data 形式化に係る共同研究」成果報告会

平成 28 年 3 月 31 日
NDC-LD 共同研究作業グループ

NDC-LD の目的・作成方針（共同研究作業グループ案）

NDC-LD の目的・趣旨

- NDC を、セマンティックウェブに適した形式でウェブ上の資源とすることで、図書館内外の多種多様なシステムが利活用できるようにする。
- 日本の図書館の主題組織化ツールとしてもっとも一般的な NDC を Linked Data 化することによって、図書館の目録データ等が、Linked Data としてさらに活用される可能性を拓く。
- ただし、NDC の冊子版及び MRDF 版の代替物となることは意図しない。

NDC-LD（試行版）の作成方針

- 平成 27 年度に実施する調査研究の成果は「試行版」とし、試行的な公開に向けて調整する。
- NDC-LD の対象は、NDC 新訂 8 版及び新訂 9 版とし、第 1 次区分表（類目表）、第 2 次区分表（綱目表）、第 3 次区分表（要目表）及び細目表を範囲とする。新訂 10 版は対象としないが、将来的な追加可能性に留意する。
- NDC-LD の主要なリソースは、分類項目（分類記号及び分類項目名）とする。分類項目に対して、HTTP 経由で参照できる URI を与える。ただし、原則として、分類項目のうち不使用項目や削除項目はリソースとしない¹。
- NDC-LD では、上記 4 つの表を結合し、分類項目間の階層構造モデルを構築する。階層構造モデルは、原則として、分類記号のケタ数のみに基づくのではなく、分類表の字上げや字下げによって表現されている概念的な階層関係に基づいたものとする。（別紙 1「NDC-LD の階層構造モデルについて」参照。）
- NDC-LD では、MRDF の個別の分類項目名に加えて、機械的に生成した文脈付き分類項目名を示す。（別紙 2「NDC-LD の文脈付き分類項目名の生成について」参照。）

¹ なお、下位リソースを持つ不使用項目（いわゆる共通事項など）は、NDC-LD の階層構造を成立させるために、この原則は適用させず、リソースとして扱う。

- NDC 分類項目のセマンティクスを、ウェブに適した形式 (RDF/SKOS) で表現する。(別紙 3「NDC-LD のデータモデル」、別紙 4「NDC Vocabulary 定義書」参照。)
 - 参照、注参照については、参照先リソースの URI を値とする。
 - 項目名、注記等については、基本的には MRDF のデータの文字列を値とする²。
 - 直近上位下位の分類項目を示すことで、分類項目間の階層関係を表現する。
 - 「中間見出し」、「二者択一項目」を、通常のカテゴリ項目から識別できるように表現する。
- 相関索引の索引語は、対応する分類項目のプロパティとして扱う (補助表等の特殊な分類記号に対応する索引語は除外)。相関索引にあるが細目表にない分類項目については、索引語から機械的に分類項目リソースを生成する。
- NDC-LD は、MRDF 版の細目表データ及び相関索引データに基づいて作成する³。MRDF 版のデータに誤字脱字や記号コードの付与誤りがあった場合でも、原則として、修正や追加は行わない。
- Linked Data として外部データとのつながりを生むために、NDLSH へのリンクを含める (9 版の場合)。NDLSH にあるが細目表にない分類項目については、NDLSH から機械的に分類項目リソースを生成する。
- 補助表による分類記号の合成は、限定的な範囲で行う。(別紙 5「NDC-LD で試行する補助表合成記号の範囲」参照。)
 - 相関索引の索引語及び NDLSH に対応する分類記号が補助表との合成による場合は、その分類記号に基づくリソースを生成する。
 - テストケースとして、非常に限定的な分類項目に対して補助表との合成を行う。

(補足) 本案について

本案は「NDC の Linked Data 化に係る共同研究」の作業グループが作成した 2016 年 3 月時点のものであり、今後の日本図書館協会での検討・調整等によって変更があり得る。

² なお、類目 (1 ケタ) と綱目 (2 ケタ) の分類項目名は、MRDF のデータに含まれている要目 (3 ケタ) の分類項目名と同じものを用いる。そのため、冊子版の類目・綱目の項目名と必ずしも一致しない。

³ MRDF の本表データに含まれていないもの (記号範囲など) はリソース化されていない。